

# 先進事例 1

## 川根振興協議会（高田郡高宮町）

### ①背景

川根地区は、高宮町の中心部から北へ10数km、島根県境に接する270世帯650人の旧村の集落です。昭和30年代までは稲作と林業、和牛、養蚕が主体の純農村地帯でしたが、昭和40年代からの高度成長期に、兼業農家が増加。しだいに過疎化、高齢化が進展し、高齢化率は50%を超えています。

### ②経緯

集落全体の過疎化、高齢化が深刻さを増す中、昭和47年2月に有志数人が立ち上がり、「川根振興協議会」を結成。地域再生に向けての話し合い活動が始まりました。同年7月、集中豪雨により壊滅的な被害を受けた川根地区で、振興協議会は援助班を編成し、自分たちで災害復旧活動を行いました。この意欲を過疎・高齢化への危機感が後押しし、住民の総意と総力を結集して活動する組織に発展。昭和52年以後は、地区全戸が加入し、積極的な地域づくりが進められています。

### ③主な活動

#### ・エコミュージアム川根

廃校になった中学校を再生した宿泊研修施設。高宮町が住民の提案を受けて建設し、川根振興協議会が管理・運営をしています。年間約6000人が利用し、地区外と川根をつなぐ交流の場として活用されています。

#### ・ふれあいマーケット、給油所

JAの統廃合により廃止されることになった店舗を、引き継いで住民が運営している店。住民が一戸当たり1,000円を出資し、地元の建設会社に経営を委託して運営しています。この店がなくなると、地区外まで買物に行かなければならなかったため、この店の存在価値は大きい。現在、高齢者からは電話で注文を受け、配達もしています。

#### ・ふあみりー・ねこの手

特産のラベンダーを使った手作り商品を製作販売している60～80代の女性グループ。商品キーワードは「活かす」。使われなくなった着物や布をリサイクルし、お手玉、すだれ、おい袋などを作っています。現在は、地区内のほか、高速道路サービスエリアでも販売。地元郵便局とのタイアップで全国発送もしています。

#### ・川根柚子振興協議会

地区の特産品であるユズの加工品を開発・製造。一番のヒット商品はユズジュースで、現在は年間18万本を売り上げるまでに成長しています。

#### ・川根地域づくり大学

先進的な住民自治や地域づくりについての講座を県内外の人を対象にエコミュージアム川根で毎月開催。地域づくりについての夢を語り合います。

### ④活動経費

町の助成金と住民の会費で年間300～400万円の予算を組む。「1人1日1円福祉募金」も毎年全戸を対象に実施し、地区住民が無理なく資金提供し、誰もが地域福祉に対して関心を持つ取組みを行っています。

### ⑤他地域の状況

高宮町には川根を含む8つの集落があり、現在はそれぞれに自治組織が結成され、個性的な地域づくりを展開しています。



エコミュージアム川根（レストランでの調理）



住民が運営するマーケット

